



## 16 下野国分寺跡

正式名称は「金光明四天王護国寺」です。奈良時代の天平13(741)年に聖武天皇の詔によって全国60数か所に建立された寺院です。平成18年度から史跡整備を行っています。



## 17 下野国分尼寺跡

正式名称は「法華滅罪之寺」です。下野国分寺跡の東方約600mに位置し、同じく聖武天皇の詔によって建立されました。全国の国分尼寺で最初に整備が行われた史跡です。



## 18 摩利支天塚古墳(小山市)

前方部を南西に向けた墳丘長120.5m、周堀外縁長が197mの巨大前方後円墳です。人物・馬などの埴輪が出土しており、5世紀末～6世紀初めに築造された古墳と考えられています。



## 19 琵琶塚古墳(小山市)

墳丘長123.1m、周堀外縁長が200mを越す巨大前方後円墳です。人物・馬などの埴輪が出土しており、摩利支天塚古墳より新しい6世紀前半頃に築造された古墳と考えられています。



## 20 吾妻古墳

栃木市と壬生町にまたがる6世紀後半に築造された古墳で、墳丘の全長が127.85m、周堀外縁長が162.12mの栃木県最大の古墳です。石室は前方部前端にあります。江戸時代には吾妻の岩屋と呼ばれていました。



## 21 甲塚古墳

国分寺跡の南西に位置し、墳丘の全長は約80mです。国分寺の僧兵の冢を埋めたとの伝説もあります。6世紀後半に築造された古墳と考えられ、平成16年度の調査で馬形埴輪や人物埴輪のほか約200点の土器類が発見されました。



## 22 機織形埴輪2基(甲塚古墳出土)

甲塚古墳から出土した全国初の機織形埴輪2基は、結城紬を織る時に使用される地機(じばた)の原型となるような形式の埴輪で、他に類を見ない希少な埴輪です。機台を持つ地機と機台を持たない原子機の2タイプが出土しました。



## 23 オトカ塚古墳

天平の丘公園にある古墳です。墳丘の全長が約32mの前方後円墳で石室は前方部前端にあります。この古墳には埴輪が置かれておらず、出土した土器から6世紀後半と考えられます。



## 24 国分寺愛宕塚古墳

愛宕神社の境内に所在する古墳で、墳丘の全長は78mで周堀外縁長が100mを超える規模です。埴輪を伴わず、6世紀後半から7世紀初頭の古墳と考えられます。



## 25 山王塚古墳

愛宕塚古墳の北側、丸塚古墳の西側に位置する古墳で、周堀外縁長が100m以上の前方後円墳です。愛宕塚古墳とほぼ同時期の6世紀末～7世紀初め頃の古墳と考えられています。



## 26 丸塚古墳

二段築成の円墳で、この一段目の直径が58m、周堀外縁直径が92mの大型円墳です。石室は凝灰岩切石の一枚石を使用しています。埴輪は伴わず、7世紀前半の古墳と考えられます。



## 27 伝・紫式部墓

中世の五輪塔で、かつて2基は姿川の河畔にありましたが、後に現在の場所に移されたといわれています。「紫・村崎」の地名からこの伝説になったといわれています。



## 28 現国分寺五輪塔

中世の五輪塔で、国分寺・尼寺に近いことから聖武天皇、光明皇后、行基菩薩を祀ったという伝説もあり、江戸時代の絵図にも描かれています。



## 29 北台遺跡 (推定東山道)

東山道とは、奈良・平安時代に都から陸奥国をつなぐ幹線道路の名称と行政区をさす名称です。平成6年度の発掘調査により、幅12mの両側溝をもつ道路であったことがわかりました。



## 30 小金井一里塚

江戸時代の五街道の一つである日光街道沿い、江戸日本橋から22里(約90km)の地点にあります。現在は国道4号のすぐ西側に、2つの塚が史跡ポケット公園として整備されています。

